企画セッション
「実験的シミュレーション手法による雪氷研究の発展と展望」

9 月 28 日（火）16:30-18:00

東京エレクトロンホール宮城 会議室 602（B 会場）

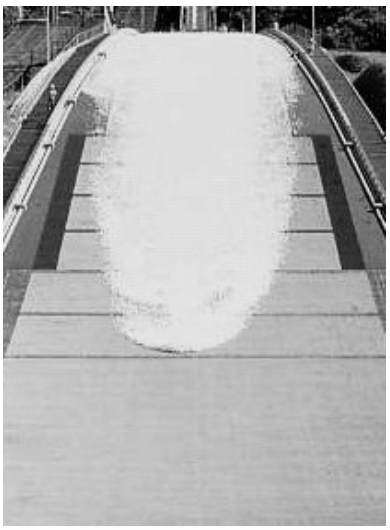
主催：(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター,(社)日本雪氷学会雪氷工学分科会

趣旨: 他の自然科学と同様に、雪氷研究も観測、実験、理論のアプローチによって発展してきた。本セッションでは、特に実験的に雪氷現象をシミュレートする手法によって行われてきた研究に焦点を絞り、これまでの研究事例を紹介するとともに、それぞれの雪氷現象に対するその手法の有効性や特有の課題などについて議論し、今後の展望を考える機会とする。

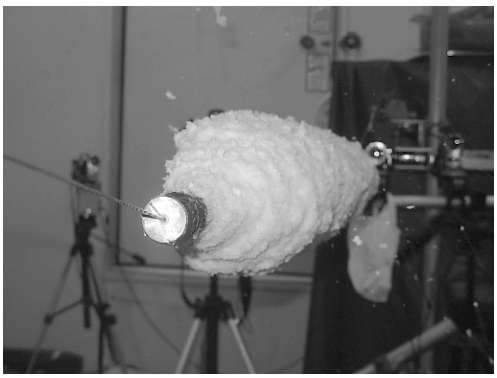
セッションオーガナイザー：佐藤　威((独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)

プログラム

1. 開催趣旨説明　　佐藤　威
2. 話題提供
   1) 「積雪の剪断強度測定における実験的手法の有効性と課題について」
      松下拓樹（(独)土木研究所寒地土木研究所)
   2) 「低温風洞内に再現する吹雪跳躍運動について」
      根本征樹（(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)
   3) 「なだれ実験の方法と成果」
      伊藤陽一（(独)土木研究所雪崩・地すべり研究センター)
   4) 「電線着雪実験方法の経緯と今後の課題」
      佐藤研吾（(財)電力中央研究所地球工学研究所)
   5) 「着氷現象の不確実性」
      木村茂雄（神奈川工科大学工学部)
3. 総合討論



ピンポン球を用いた雪崩実験(伊藤陽一氏撮影)



電線着雪の再現実験
(佐藤研吾氏撮影)